

「今後の経営のあり方について」

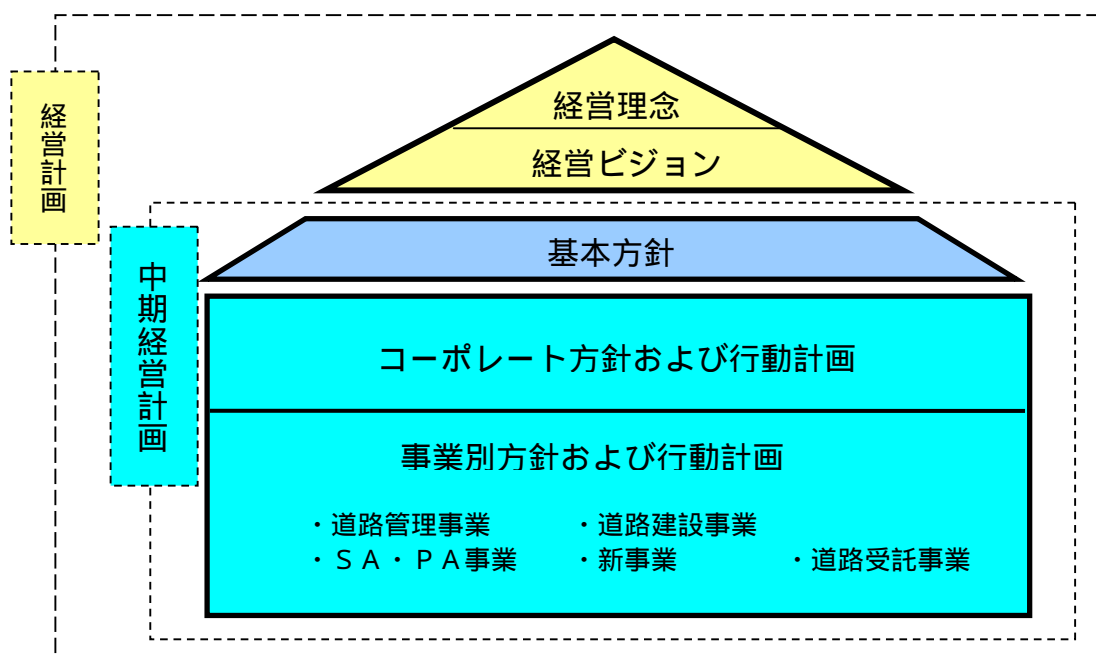
平成 17 年 10 月

東日本高速道路株式会社

目次

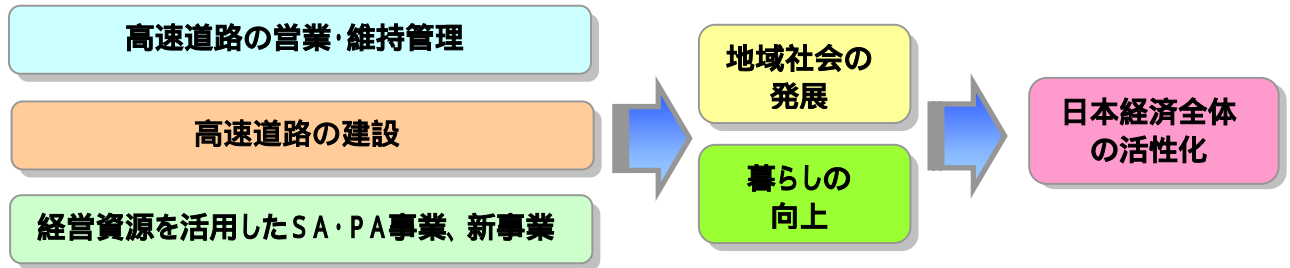
- ・ 経営理念
- ・ 経営ビジョン
- ・ 中期経営計画のあり方
 - 1 . はじめに
 - 2 . 基本方針
 - 3 . コーポレート方針および行動計画（アクションプログラム）
 - 4 . 事業別方針および行動計画（アクションプログラム）
 - ・ 道路管理事業
 - ・ 道路建設事業
 - ・ サービスエリア・パーキングエリア（SA・PA）事業
 - ・ 新事業
 - ・ 道路受託事業

（経営計画のあり方）

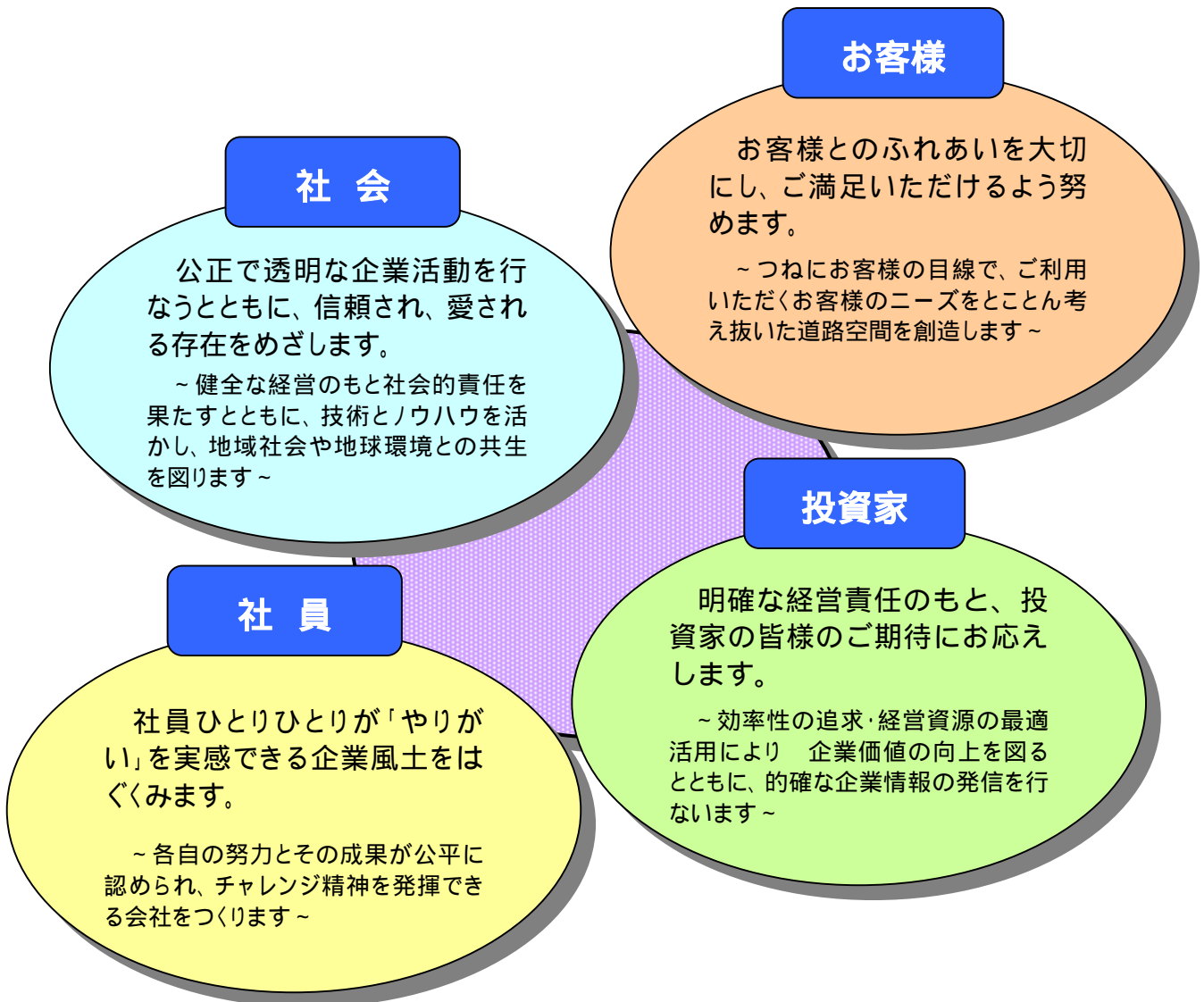


経営理念

東日本高速道路株式会社は、高速道路をこれまで以上に有効に活用し、その効果を最大限発揮させることで、地域社会の発展と暮らしの向上、さらに広く日本経済全体の活性化に貢献します。



経営ビジョン



中期経営計画のあり方

-1.はじめに

東日本高速道路株式会社は、政府の特殊法人改革により、平成17年10月1日に設立、スタートいたしました。民営化の主な目的には 債務返済の道筋を立てること、 高速道路の建設については会社の自主性を尊重しつつ、できるだけ少ない国民負担で造ること、 効率性を追求し、高コスト体質からの脱却及び生産性の向上を可能とすることの3点がありました。東日本高速道路株式会社としては、この目的の実現に向け、『お客様に信頼され真に国民のためになる』ことを目指してまいります。そして、安全で安心できる高速道路の管理や、より信頼性の高いネットワークの構築を行うことにより、日本の暮らし、社会、経済、文化の向上に貢献してまいります。

これまで高速道路が果たしてきた役割を新会社が引き継ぎ、発展させるためにも、安全で安心できる高速道路をしっかりと守りながら、3割の管理コスト削減（平成14年度比）を実行してまいります。さらに、日本経済の回復と活性化を支えていくために、ETCを活用した弾力的な料金設定や多様なサービスをご提供するなど、これまで以上に「使いやすい」高速道路を訴求し、高速道路の効果を最大限発揮することが必要であると考えています。

また、道路構造の見直しや技術開発などによる徹底したコスト削減を行いつつ、約500kmの道路の新設事業と約100kmの4車線化事業を推進します。例えば、地域の中心都市間を連絡する幹線網を整備するとともに、都市圏においては、円滑な道路交通のための環状道路の整備を重点的に進めることなど、地域の発展に寄与するネットワーク効果の促進、機能の向上・強化を目指します。これからは、知恵と工夫を重ね、高速道路をより有効にご利用いただくことにより、社会資本としての効果を一層高め、地域の再生、国際競争力の強化を通じた日本経済の活性化に寄与していきたいと考えています。

さらに、サービスエリア・パーキングエリアにおける事業や新規分野における事業について格段に自由度が高まり、多様なサービスを展開することが可能となりました。コンビニエンスストアの導入を拡大し、また、地域色豊かな特徴ある飲食店舗の導入を進めるとともに、お客様の利便性を高める新たなビジネスを展開してまいります。新たな可能性のもと、収益の向上を図りながら、より効率的でニーズにあった事業の創設・運営を図るとともに地域経済の発展に寄与していきたいと考えています。

そして、談合などの不正行為を絶対に許さないという決意のもと、公正で透明な経営を通じ、信頼性の向上に努め、社会的責任を果たしてまいります。これらのことを実現していくため、東日本高速道路株式会社としては、この2005年度から2010年度までを『経営基盤を確立する期間』にとらえ、中期経営計画を策定してまいります。

-2. 基本方針

位置付け

2005年度から2010年度までを『**経営基盤を確立する期間**』として位置付けます。

経営方針

高速道路をご利用されるお客様とのふれあいを第一に、お客様の満足の向上に努めます。

徹底したコスト削減のもと、効率的な経営を行い、高速道路の貸付料を着実に支払います。

談合等の不正防止やファミリー企業の見直しなど、公正・透明な経営を通じ、信頼性の向上に努め、企業の社会的責任（CSR）を果たします。

経営目標

安全で円滑な道路交通を確保しつつ、引き続き管理コストの削減（平成14年度比3割減）を図るとともに、ETCを活用した弾力的な料金設定や多様なサービスをご提供し、使いやすく安心な高速道路を追求します。

道路構造の見直しや技術開発などによる徹底したコスト削減を行いつつ、約500kmの道路の新設事業と約100kmの4車線化事業を推進します。また、新直轄区間については、技術とノウハウを活かし国の事業推進に協力し、東日本地域における信頼性の高い高速道路ネットワークの構築に貢献します。

サービスエリア・パーキングエリアにおいては、コンビニエンスストアの積極的な導入、地域色豊かな商品・飲食店の拡充、高速道路をご利用になるお客様の多様なニーズに応える商品・サービスを提供します。また、高速道路を始めとする経営資源を活用した新たなビジネスへの進出を図ります。

-3. コーポレート方針および行動計画(アクションプログラム)

(1) 方針

公正・透明な経営を通じ、信頼性の向上に努め、企業の社会的責任（CSR）を果たします。

適切に経営を管理する体制を確立します。

効率的に事業を推進するしくみを構築します。

お客様の声を聴き、お客様の満足度向上に努めます。

環境保全など諸課題を解決するための技術開発を推進します。

効率的な事業運営及び収益の拡大を図り、全体としての企業価値を最大化するための経営体制を構築します。

(2) 行動計画 (アクションプログラム)

公正・透明な経営を通じ、信頼性の向上に努め、企業の社会的責任 (CSR) を果たします。

- ・ 談合等不正行為の防止に努めるとともに、経営責任を明確にし、より実効性のあるガバナンスを確立します。

- 内部統制システムを確立し、内部監査の充実、法令遵守の徹底、企業倫理の向上、リスク管理体制の強化を図ります。
- 情報セキュリティに関する対策基準を定め、個人情報の保護を初めとした情報管理を強化します。

- ・ ディスクロージャーに取り組み、お客様や投資家からの信頼性向上に努めます。

- 報道機関への記者発表、ホームページへの掲載、マスメディアを活用した情報発信など多様な手段により、企業情報、経営情報を適時適切に公開し、経営の透明性を向上させます。
- 事業別の経営情報 (セグメント情報) や経営に重大な影響を及ぼすリスク情報の開示に努めます。

- ・ 地域社会、国際社会の一員としての責任を果たします。

- 地域連携のプロジェクトや地域イベントへの参加及び支援を積極的に行います。
- 企業活動を通じて環境への影響に配慮し、地球環境保全や循環型社会形成への貢献を図るとともに、環境報告書の作成・公表等、環境マネジメントを進めます。
- 諸外国の道路関係機関などや学術団体との効果的な交流を推進します。

適切に経営を管理する体制を確立します。

- 経営目標及び事業戦略を全社一丸となり策定し、組織の総合力を結集して実施していく体制を構築します。
- 中期計画を踏まえた年度計画を作成し、管理会計手法による業務実績の評価・分析に基づき、適切に計画を見直すことができるよう PDCA サイクルを構築します。
- 企業イメージを定期的に評価・分析し、その結果を業務に反映していく仕組みを構築します。

効率的に事業を推進するしくみを構築します。

- ・ 効率的な事業運営を可能とする体制を整備します。

- 意思決定の迅速化及び機動的・弾力的運用が可能となる組織体制を構築します。

- ・ 社員の意欲と能力を伸ばし、専門性の高度化を目指します。

- 研修内容の充実、自己啓発支援策の充実等、能力開発制度などの確立を図ります。
- ライフスタイルの多様化に応じつつ、受益の機会均等などに配慮した福利厚生を目指します。

お客様の声を聴き、お客様の満足度向上に努めます。

- お客様と向き合える窓口を増やすなど常にお客様の声を伺いすることができる体制の構築を図り、お客様のニーズにお応えできるように努めます。
- お客様からの意見を分析し、その結果をスピーディーに業務に反映できる仕組みを整備するなど、CRM（カスタマー・リレーションシップ・マネジメント）の構築を図ります。

環境保全など諸課題を解決するための技術開発を推進します。

- ・ 他的高速道路会社と連携して技術開発を推進します。

- 事業の効率化（コスト削減、計画保全）に寄与するための技術開発

- 合理的な設計手法の導入や新材料・新技術・新工法を開発することにより、建設・更新コストの縮減を図ります。
- 非破壊検査技術の開発を推進するとともに点検データを蓄積・評価することで、劣化を予測し、計画保全に活用できる技術開発を推進します。

- 安全性・円滑・快適性を向上させサービスレベルの向上を実現するための技術開発

- 交通事故削減や渋滞解消など安全で快適な走行環境を確保するための技術開発を積極的に推進します。
- 地震・異常降雨などの被害の未然防止や最小化を図るために、道路構造の強化などに関する技術開発を推進します。

- 周辺環境ならびに地球環境保全のための技術開発

- 騒音対策や緑化など沿道の生活環境や自然環境保全のための技術開発を推進します。
- 建設副産物や植物発生材などのリサイクル技術の開発を推進します。
- CO₂削減やヒートアイランド対策など地球環境保全のための技術開発を推進します。

効率的な事業運営及び収益の拡大を図り、全体としての企業価値を最大化するための経営体制を構築します。

- 総合力を発揮し、全体として企業価値の最大化を実現する業務実施体制の構築

- 企業の総合力を発揮して高速道路の「安全性」「信頼性」「快適性」「品質」のより一層の向上と効率性を追求するとともに、SA・PA事業や新事業を通じた収益を拡大して、全体として企業価値の最大化を実現する業務実施体制を構築します。

- 4. 事業別方針および行動計画(アクションプログラム)

(1) 方針

経営資源を有効に活用し、効率的な事業の遂行に努めます。

道路管理事業

より使いやすい道路を目指し、お客様に満足していただけるサービスをお届けします。

道路建設事業

信頼性の高い高速道路ネットワークを構築します。

サービスエリア・パーキングエリア (S A ・ P A) 事業

サービス水準の向上と多機能化により、お客様にご満足を提供するとともに、収益の拡大を目指します。

新事業

新規事業分野を開拓し、事業機会を創造します。

道路受託事業

新直轄方式で高速道路を整備する区間について、技術とノウハウを活かし、国の事業推進に協力し、信頼性の高い高速道路ネットワークの構築に貢献します。

(2) 行動計画(アクションプログラム)

経営資源を有効に活用し、効率的な事業の遂行に努めます。

道路管理事業

より使いやすい道路を目指し、お客様に満足していただけるサービスをお届けします。

- ・ いつもお客様に安全と快適を実感していただけるよう、良好で適切な管理を実施します。

- 安全・快適な走行環境の確保

- 雨天時の走行環境を向上させるため高機能舗装化を進めます。
- 地域の交通特性、お客様のニーズを反映した、より安全で効率的な工事規制の実施に努めます。
- 総合的な事故分析を行い、強化型中央分離帯防護柵の整備などの効果的な交通安全対策を実施します。
- 凹凸型路面標示や導流レーンマークの設置など、暫定2車線区間の安全対策を進めていきます。

- 定時性の確保

- 事故の発生に対し、関係機関と連携を図り、迅速な交通の回復を図ります。
- 渋滞原因を分析し、費用対効果、ネットワーク整備、ETC普及状況、現地状況などを踏まえ、道路の拡幅やETCレーンの増設、渋滞予測情報の提供などを実施し、渋滞緩和に努めます。

- 異常気象や災害に強い道路づくり

- 特に冬季間の気象変化に起因する通行止時間が短くなるよう、関係機関と連携するとともに、地域・気象特性に即した視程障害防止などを実施していきます
- 新しい基準に基づいた、橋梁の耐震補強を進めていきます。

- きめ細やかな情報提供

- 情報提供機器をより有効に活用し、リアルタイムで詳細な情報提供の更なる充実に努めます。
- 通行止発生時には、解除に向けた作業状況などの情報を提供していくことに努めます。
- 路線番号を標示するなど、わかりやすい標識の設置を進めていきます。

- ・ 高速道路による社会への貢献を目指します。
 - 大規模災害時には、関係機関と連絡を図り、高速道路が緊急輸送路として迅速かつ円滑に機能するよう努めます。
 - 高速道路を利用した救命救急活動を支援するため、関係機関との連携の強化を図ります。

- ・ より多くのお客様にご利用していただけるようなさらなる取り組みを実施します。

- サービス向上に向けた取り組み

- 接客マナーを向上させ、お客様に気持ち良くご利用していただけるよう努めます。
- 料金を分かりやすくご案内するなど、お客様の声に適切にお応えしてサービスの向上に努めます。
- 高齢者・身体障害者のお客様がご利用しやすい道路空間の創出に努めます。

- 利用促進に向けた取組み

- ETC利用促進に向け、ETCレーンの利便性向上に取組みます。
- 地域と連携した新たな交通需要の創出や、ETCを活用してお客様に満足いただけるような料金サービスを展開していきます。

- ・ トータルコストを削減し、効率的な道路管理に取組みます。

- 道路構造物の延命化や管理コストの平準化、ライフサイクルコストの最小化を図るマネジメント手法を導入し、効率的・効果的な道路管理に取組みます。

- ・ 循環型社会の形成に対応した道路管理に取組みます。

- 植物発生材の堆肥化など緑のリサイクルを推進します。

道路建設事業

信頼性の高い高速道路ネットワークを構築します。

- ・ 地域の発展と暮らしの向上に貢献する高速道路ネットワークを整備します。

- 計画的かつ重点的な高速道路ネットワークの整備

- ネットワーク効果を高めるために、必要な高速道路の整備を計画的かつ重点的に行い、高速道路ネットワークの形成に寄与します。

- 高速道路ネットワークの機能の向上・強化

- 拡幅、改築などを行い、高速道路ネットワークの機能向上を図ります。
- 一般道路と一体となった利便性の高いネットワークとするため、関係機関と連携してインターチェンジやジャンクションの設置や改築を行います。

- 地域と連携した高速道路の構築

- 地域との信頼関係のもと、説明責任を果たし安全性・快適性を備えた質の高い高速道路を構築します。

- ・ 環境に配慮した高速道路を整備します。

- 沿道の生活環境や景観に配慮した道路づくりの推進

- 遮音壁の設置等、沿道の生活環境保全に必要な環境対策を適切に実施します。
- 沿道景観と調和し、公共性、持続性に配慮した道路構造物のデザインを行います。

- エコロード（自然環境に配慮した道路づくり）の推進

- 動物の移動経路の確保や貴重植物の移植など、自然環境に及ぼす影響を、回避、低減、または代償する措置を講ずることにより、地域の自然を保全します。
- 周辺地域に見られる樹木の植栽など、周辺の自然環境に調和した整備を行うことにより、動植物の生息・生育空間を創出します。

- 地球温暖化防止と循環型社会形成への貢献

- CO₂の吸収・固定などの地球温暖化防止に資するため、盛土のり面の樹林化を図ります。
- 循環型社会の形成に資するため、建設発生土、コンクリート塊、アスファルトコンクリート塊などの建設副産物のリサイクルを推進します。

- ・ コスト削減に努め効率的に事業を実施します。

- 合理的な設計手法の導入や新材料・新工法を開発することにより、ライフサイクルコストを考慮したコスト削減を図ります。
- 必要に応じて合併施行方式を活用するなど、国や地方と連携して効率的に事業を実施します。
- 工程管理・事業費管理を適切に実施し、効率的な道路建設に努めます。

サービスエリア・パーキングエリア（SA・PA）事業

サービス水準の向上と多機能化により、お客様にご満足を提供するとともに、収益の拡大を目指します。

- ・ 地域の特性を活かしたよりよいサービスをお届けします。

- お客様の多様なニーズに応える商品・サービスの提供

- どなたにでもお気軽にご利用いただける物販・飲食施設を充実させます。
- その地域ならではの味が楽しめる個性的な飲食店を増やします。
- 「お値頃感」「安心感」を実感していただける商品、サービスを実施します。
- 魅力ある商品やニーズの高い商品を充実させます。
- 地域色豊かな特産品や野菜などの地場生鮮品を販売します。
- 地域と協力して、周辺観光情報などの情報発信を行います。

- 便利さ、快適さの追求

- 店舗などの施設の清潔、綺麗を徹底します。
- どなたにでもご利用しやすく、快適に休憩できる空間を創出します。
- 移動の疲れを癒す施設を整備します。

- ・ 事業環境の変化に柔軟に対応し、効率的な事業運営に努めます。

- 地域特性、利用者動向、市場動向等十分に把握し、最適な施設配置に努めます。

新事業

新規事業分野を開拓し、事業機会を創造します。

- ・ 高速道路の潜在的なお客様、社会のニーズを踏まえた事業機会の拡大を図ります。

- 高速道路を始めとする経営資源を活用した新たなビジネスへの進出を図ります。
- 新たな商業施設の設置に向け、周辺施設と連携してSA・PA、インターチェンジ周辺の開発を図ります。
- 知的財産の蓄積を図り、事業機会の創出を目指します。

- ・ 収益性の優れたビジネスモデルを構築し、着実に新規事業を進めます。

- 東日本の地域特性、お客様ニーズ、市場動向等を十分に把握して事業を進めます。
- 高速道路ネットワーク効果が発揮できる事業については、他の高速道路株式会社と協力・連携を図ります。
- 先進企業との業務提携(経営・技術ノウハウの導入)を視野に入れて事業を進めます。

道路受託事業

新直轄方式で高速道路を整備する区間について、技術とノウハウを活かし、国の事業推進に協力し、信頼性の高い高速道路ネットワークの構築に貢献します。